

令和元年度 第2回高岡市総合教育会議 会議録

I 日時 令和2年2月19日(水) 午後2時～午後3時50分

II 場所 高岡市役所3階 庁議室

III 出席者 高岡市長 高橋 正樹
高岡市教育委員会
教育長 米谷 和也
教育委員 長尾 順子
教育委員 長谷田 祐一
教育委員 森 美和
教育委員 土田 一清

事務局関係

総務部

総務課長 上森 智美

総務課副課長 木村 文徳

教育委員会事務局

教育次長 杉森 芳昭

教育次長・学校教育課長 高松 毅

参与 川辺 勝治

教育総務課長 中保 哲憲

生涯学習・文化財課長 大野 洋靖

教育センター所長 松谷 均

教育総務課副課長 島田 輝

教育総務課係長 水上 暁

IV 傍聴者 なし

V 協議の概要

1 開会

・市長あいさつ

【市長】

昨年末に、国の方針としてGIGAスクール構想が発表された。子ども達にとってより有意義な教育を行うため、1人1台タブレットの導入などにより、今後の情報化社会に対応できる教育を行うものになる。加えて、来年度から、英語教育やプログラミング教室など新たな指導要領による教育が実施されるなど、教育改革が行われようとして

いる。本市においても、これらを受け、以前から今後10年を見据えた本市の教育の在り方について議論を進めてきた。令和2年度には、富山県内でも初めての義務教育学校を開設することとなる。また、五位中学校区の再編についても、第一歩として石堤小学校と東五位小学校を統合し、名称を五位小学校として開校することとしており、これまで進めてきた議論が、いよいよ具体的な形となって現れてくることとなる。

教育委員会では、今年度、その他の再編対象となっている4中学校区についても、地域懇談会を開催し、学校施設の場所及び時期について地域との協議を進めていただいた。本日は、議題として4中学校区の新たな学校の設置場所及び統合時期についての方針を盛り込むこととした小中学校の配置案を提案いただいているので、この提案について総合教育会議として方針決定を行いたい。さらに、高岡市教育大綱については、高岡市教育将来構想検討会議からも助言をいただいております。本日は、教育大綱についてもご議論をいただきたい。皆様には、今後の教育の充実に向けて忌憚のないご意見をいただきたい。

2 協議事項

(1) 今後10年を見据えた高岡市における小中学校の配置について (教育長・教育総務課説明)

【市長】

今ほど、今後の10年を見据えた高岡市における小中学校の配置についての説明があったが、地域の懇談会における様々な意見も集約しながら今日に至ったものと思う。既に方針決定している国吉中学校区及び五位中学校区も含めた6中学校区の方針を固めていくことになった。今回、新たに提案のあった4中学校区について、これまでも教育委員会でご議論いただいているかと思うが、委員の皆様からご意見を頂きたい。

【長尾委員】

去年の今頃と現在では、全く風の吹き方が違うと思っている。地区の懇談会に出席させていただいたが、最後は拍手で終わる。それだけ地域の期待が大きいということかと思う。将来の学校の姿やこれからの教育の方向性について、しっかりと説明されていることが信頼につながっていると思う。また、通学バスや跡地の問題などについての要望が多くあることから、早く実現してもらいたいという希望に変わってきていると感じる。これからは、学校だけでなく地域も含め皆で考え、一緒に学校をつくりあげていく段階に入っていくかと思う。

【長谷田委員】

小中一貫教育が予定されている地区では、ある程度周知されてきていると思うが、そうではない地区についても、小中一貫教育についての周知が必要かと思う。また、再編統合対象の地区とそうでない地区で差が出ないようにしてもらいたい。

国吉義務教育学校は、県内他市の義務教育学校に負けられないような先進的な取り組みをしていただきたい。ぜひ、高岡ならではの教育の在り方を形成していただきたい。

【土田委員】

この1、2年で、教育現場が明るくなったと感じている。これは、校区の皆さんと意見交換をしたということにつけるのではないかと思う。教育長が中心となり教育委員会事務局の方も一緒になって一生懸命に各地区を回られて、地域の方とお近づきになったということもあると思う。

通学については、安全の問題もあり、2kmを超えたらバスを出して欲しいという要望が多くの校区であった。

意見として多く出ていた学校の跡地利用については、市としての考え方をしっかり持っておく必要がある。色々な方から意見を聞くことができれば、良い知恵が出てくると思う。

【森委員】

自分の周りを見ると、1年前と現在では、新しい学校づくりに対する保護者の興味・関心が強くなっていると感じる。例えば、4月の国吉義務教育学校のスタートに関して、他校区の保護者の関心がすごく強いと感じている。そのため、学校の規模としては小さいが、小さいからこそ出来ることがある。先生方も期待を持ってカリキュラムを考えておられると思う。

また、多くの保護者は、部活動について気にしていると思う。今後、子どもが少なくなることにより、好きなスポーツに携われないことが無いよう、のびのびと部活動ができる環境を整備してもらえればと思う。私もスポーツの指導に携わっているが、受け皿は大変大切だと思う。指導に関わる者は、できるだけ子どもの期待に沿いたいと思うもので、協力できることは協力しながらやっていきたい。学校では小さくなっている子どもでも、部活動では活躍できたり、好きなスポーツをやっている時だけは自分らしさを出せる子どもがいることを忘れずに、今後の部活動のあり方を考えていただければと思う。

【市長】

教育長はじめ教育委員会の職員、また教員の方には、地域の方とご協議いただいたことを感謝申し上げます。また、これまでの協議を通じ、教育委員会と地域の方々との関係が近くなったことを嬉しく思う。今までは、学校の内と外に見えないバリアがあったようにも思える。教育というカテゴリにおいては、やむを得ない一面はあるが、その垣根を取り払い、保護者や地域の方々が学校の在り方について、一緒に考えていただくきっかけになったことは、大変良かったと思う。

また、子どもにとって良かれという思いからの要望が多く出てくると思うが、教員の働き方改革なども踏まえた議論をいただくことで課題を認識してもらうことは、今後

の学校運営における力になると考える。

今回、4中学校区についてのご提案であったが、これから協議会を作るのか。

【教育長】

今回の案を固めさせていただいた上で、地区毎に開設準備のための委員会を立ち上げる予定である。平米校区及び定塚校区が直近となるので、来年度は、この2地区の準備に入っていくことになる。

【市長】

今回、これで学校の設置場所及び時期についてのおおまかな在り方が見えてきた。今後は、小中一貫9年間の具体的なカリキュラムの検討や部活動を含めた学校生活の在り方をお示ししていくことが、次の課題だと考えている。9年間の統一カリキュラムは既に作成されているのか。

【教育長】

現在、それぞれの中学校区で最終段階にある。

【市長】

それでは、今後10年間を見据えた高岡市における小中学校の配置について、本日お示しのあった案に沿って再編・整備を進めていくということで、総合教育会議として方針決定してよろしいか。

【各教育委員】

(異議なし)

(2) 高岡市教育大綱の改定について

(教育長・教育委員会教育総務課説明)

【市長】

本日2つ目のテーマとして、市の教育大綱について議論させていただきたい。改定に向けた今後のスケジュールはどうか。

【教育長】

本日の議論におけるご意見を踏まえた案を次回の総合教育会議においてお示しさせていただきたい。その後、再度ご議論いただき、最終的なものとさせていただきたい。

【市長】

教育長から高岡ならではの教育という言葉があったが、どのようなことが高岡ならではのと考えているのか。

【長尾委員】

学校だけでカリキュラムやビジョン、ランドデザインを作るのではなく、様々な分野の方や地域の方が自分たちの宝をどう育てていくかについて、皆で知恵を出し合い学校のビジョンを作る良い機会が、今ではないかと思う。そうした風土があるのが高岡らしいと感じている。

また、小中一貫教育を市の一部で実施するのではなく、市全体で実施することは、学習面だけでなく、危機対応や特別支援教育、学力の面でも大きく発展できる良いチャンスかと思う。

【教育長】

地域には受け入れる土壌があると思う。これをうまくつなげていく中で、皆さんに支えていただく高岡ならではの学校としたい。都会では地域性が無いため、PTAが成立しないとか、地域との関係がなかなかできないといった問題があり、コミュニティスクールなどの新しい制度により地域の人を学校に呼び込もうということを文部科学省が考えている。高岡市の場合は、すでに地域で支える土壌ができていますので、これを高岡型として将来、次世代につなげていきたい。

【市長】

今回の再編に係る地域との協議は良いきっかけだったと思う。この体験を踏まえスキーム作りをお願いしたい。

【土田委員】

市民の方と一体となって、オール高岡で高岡市の教育を作りあげていく中で、教育とまちづくりもつないでいただきたい。多くのコミュニティができ、インターネットにより瞬時に色々な情報が飛び交うなど社会が多様化している。こうしたことを踏まえた上でまちづくりをすれば強い高岡市になると思う。

スポーツについては、少子化の影響でチームが作りづらい現状がある。私は、ハンドボールのお世話をしているが、市のハンドボールについても人が減ってきているので、市体育協会が中心となり、クラブチームを作ることに動き出している。ハンドボールだけでなく、市全体で、色々な競技のクラブを作りあげていく仕組みができれば良いと思う。

【森委員】

地元の方々から、子ども1人ひとりに声かけをしていただき、安心して学校に送り出せている。学校に行っても友達になじめないという子どもでも、パトロールのおじさんとなら会話ができるといったことも聞く。同学年とは交われない子どもにとって

は、異年齢や異学年と交流する場が非常に大切であると思う。

教員の方に聞くと、タブレットを使うことで一人ひとりに合わせた学びができるようになるとのことである。例えば、違う学年の子どもと授業を行えば、上の子が下の子の面倒を見る体制が自然にできる。このように、今まで出来なかった新しいことを先生方に挑戦していただきたいという期待がある。

【長谷田委員】

現在の教育大綱は、第2章と第3章で同じ内容が繰り返し掲載されており、読みづらいように感じる。

【教育長】

市民の皆様に分かりやすくお伝えする必要があり、ご指摘については真摯に受け止めたい。

【市長】

現在の教育大綱を作る際は、いじめの問題などが話題になっていたため、私としては、一人ひとりの個性を大事にして欲しいという思いがあった。併せて、子どもの24時間の切れ目のないケア、出生から自立するまでの子ども達のケアをお願いした。

スポーツについては、一定の人数が揃わないと練習もできないため、これをどうするかということが大きな課題になるかもしれない。特に中学校の部活動などでは、教員の働き方改革もあり、色々な課題が出てきている。これらを踏まえると、地域として、スポーツで子ども達を健全に育成していくことが大事ではないかと思う。本日、頂いた意見を踏まえ、次回、教育大綱の案をお示しいただきたい。

以 上